

萩市企業景況調査

DI方式

平成24年10月～12月期 実績
平成25年1月～3月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは?
DIは各調査項目について判断の状況を示す。
ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向
〔良い〕の回答割合が多いことを示し、マイナス
の値は景気の下向き傾向〔悪い〕の回答割合が多
いことを示す。
◎DI = (増加・好転など〔良い〕の回答割合)
- (減少・悪化など〔悪い〕の回答割合)
※設備投資は割合 (%)

《調査機関》萩商工会議所

業況、マイナス幅縮小も先行きは依然不透明

景況の概要

平成25年1月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率95%)

生産・売上 前期比DIは年末需要などで卸売業を除く業種が増加となった。(全業種平均22.4ポイント)。前年同期比は製造業・サービス業を除く業種が減少している(全業種平均▲12.1ポイント)。今後(1～3月期)の見通しでは、季節的要因などから全業種が減少すると予想(全業種平均▲51.7ポイント)。

収益(経常利益) 前期比DIは、建設業・製造業・サービス業・観光関連業は増加となった。(全業種平均5.2ポイント)。前年同期比は製造業を除く他の業種は減少している(全業種平均▲13.8ポイント)。今後(1～3月期)の見通しでは、建設業を除く業種が減少すると予想(全業種平均▲44.8ポイント)。需要停滞やデフレによる価格競争激化などで収益が圧迫されている。

資金繰り 前期比は建設業、サービス業を除く業種が悪化となった(全業種平均▲5.2ポイント)。今後(1～3月期)は全業種が悪化すると予想している(全業種平均▲25.9ポイント)。

従業員数 製造業は適正、卸売業は過剰感、他の業種は若干の不足感があるとしている。

経営上の問題点 ①需要の停滞 46.4% ②人材の確保難 12.5% ③同業他社との競争激化 8.9%の順となっているほか、仕入れ価格の上昇、原油価格上昇によるコスト増加、値引き要請等取引条件の悪化などが挙げられている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、安倍新政権が実施するインフラ整備など公共事業増加の期待感から建設業は好転すると予想しているが、他の業種は季節的要因などにより悪化すると予想(全業種平均▲43.9ポイント)。特に、サービス業の停滞予想が目立っている。

景況に関する生の声 ■とにかく魚価が高い。今までと同じことをしていたのでは経営が成り立たないことはわかっているが、利益確保に向け必死である(海産物加工業)。■漁獲量により仕事量が変化する(海産物卸売業)。■円安により燃料費が上昇し利益を圧迫(工房)。■アベノミクスによるデフレ脱却に期待(大型店)。■引き続き、需要の著しい停滞が続く。個人観光客の減少傾向も感じ、旅行客数と経済効果が十分にリンクしていないようだ(萩焼販売)。■現在の景気について静観している(宿泊業)。

項目 / 業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年 平均	前々年 平均	
生産・売上	前期比	10.0	60.0	▲22.2	10.0	40.0	33.3	22.4	9.3	0.0
	前年同期比	▲10.0	20.0	▲44.4	▲20.0	10.0	▲33.3	▲12.1	▲13.0	▲54.4
	25年1月～3月期見通し	▲20.0	▲40.0	▲44.4	▲70.0	▲60.0	▲77.8	▲51.7	▲51.9	▲47.4
収益	前期比	20.0	30.0	▲33.3	▲10.0	10.0	11.1	5.2	9.3	▲7.0
	前年同期比	▲10.0	0.0	▲22.2	▲30.0	▲10.0	▲11.1	▲13.8	▲22.2	▲43.9
	25年1月～3月期見通し	20.0	▲50.0	▲33.3	▲60.0	▲70.0	▲77.8	▲44.8	▲53.7	▲49.1
資金繰り	前期比	0.0	▲20.0	▲22.2	▲10.0	30.0	▲11.1	▲5.2	▲7.4	▲22.8
	25年1月～3月期見通し	▲20.0	▲20.0	▲22.2	▲20.0	▲20.0	▲55.6	▲25.9	▲31.5	▲33.3
従業員数 24年12月末	10.0	0.0	▲22.2	10.0	40.0	22.2	10.3	▲1.9	▲14.3	
設備投資	(実績)	0.0	30.0	0.0	30.0	10.0	33.3	17.2	11.1	10.5
	(計画)	30.0	10.0	11.1	20.0	10.0	50.0	21.1	16.7	10.5
業界動向	50.0	▲50.0	▲55.6	▲70.0	▲80.0	▲66.7	▲44.8	▲72.2	▲64.3	